

各 位

平成 18 年 7 月 14 日

株式会社りそな銀行

REENAL プロジェクト『書籍「Re:S(りす)」への企画参画』について

株式会社りそな銀行(社長 野村 正朗)は、平成 16 年 1 月より取り組んでいる REENAL プロジェクト()の一環として、編集プロダクション parkediting が創刊する Re:Standard をテーマにした新しい書籍媒体「Re:S(りす)」に企画参画し、REENAL プロジェクトの新しいメディアとして活用いたします。りそな銀行は、今後も REENAL プロジェクトを通じて、地域活性化に取り組んで参ります。

書籍「Re:S」の概要は下記の通りです。

媒体概要	タイトル	Re:S(りす)
	編集	parkediting
	企画	りそな銀行(REENAL by RESONA Bank として企画)
	発行元	リトルモア
	創刊日	平成 18 年 7 月 15 日(土)
	発行部数	50,000 部
	頁数	92 頁(オールカラー)
	価格	680 円(税抜 648 円)
	発行ペース	季刊(以降 10 月、1 月、4 月、7 月の 15 日発行)
コンセプト	Re:S = Re:Standard ~あたらしい“ふつう”を提案する~ 《編集長 藤本智士(parkediting)より》 駆けあしな世の中が ぼろぼろと落としていった大事なものを ひとつひとつ拾いあげていく そんな雑誌をつくろうとおもいます。	
創刊号内容	巻頭特集「すいとうのある暮らし」 ・いまどうしてすいとう?・すいとうを買いにいこう ・それぞれのすいとうライフなど。 第 2 特集「いまだからワープロ」 ・ワープロ図鑑・長嶋有×柴崎友香対談 ・ワープロ専門店「シンワ」取材など 第 3 特集「マイスタンダード」 ・潮田登久子(写真家)、原田郁子(クムホソ)、アン・ミカ(モデル) など。	

() REENAL プロジェクト

りそな銀行の「RESONA」と地域を表す「REGIONAL」を組み合わせた造語。りそな銀行が中心となって、企業や地域とのコラボレーション企画を展開し、新しいマーケットを創造することを目的としたプロジェクトの総称。FM802 のアートプロジェクト「dimeout」とのコラボレーション企画「RESONART」や天神橋筋商店街まちおこし共同企画など、ラジオ番組・フリーペーパー・Web サイトなどのメディアをミックスさせ、様々なコラボレーションを展開しています。

以 上

ご参考資料

「REENAL と Re:S」について

文：藤本智士（Re:S 編集長）

りそな銀行が中心となって他企業や地域とのコラボレーション企画を展開し、企業や地域のポテンシャルを引き出し、最終的に新しいマーケットを創造することを目的としたプロジェクトの総称、「REENAL（りそな銀行の“RESONA”と地域をあらわす“REGIONAL”を組み合わせた造語）」。

この REENAL のプロモーションツールである「REENAL digmeout EDITION」の編集・デザインを担当させていただくことになったのをきっかけに、ぼくは、REENAL のプロデューサーである藤原明氏に初めて出会いました。この藤原氏との出会いで「Re:S」は生まれたと言ってしまうと間違いではありません。

僕は日々、編集という幸福な仕事をしていて、それは誌面に限らず、展覧会やイベントなど様々なモノを創ってきました。しかし、そのどれもぼくが創りたいものを創っているというぼく自身の欲望であると同時に、そうすることで世の中を変えていきたいという思いが常に確かなものとして存在していて、けれどそれは一方で、やっぱりぼくにとって秘めたる思いのようなものでしかありませんでした。

しかしぼくは REENAL に出会ったことで、改めてその思いをそのままに、もっとリアルに表現して、しっかりと世に問いたいと思うようになりました。あるとき REENAL 藤原さんはぼくに、まるで子供のようなまっすぐさで「日本を変えないと」と言いました。その言葉や考えは、どの政治家よりピュアで、どの宗教家よりリアルで、どの学者よりアクティブで、どのクリエイターよりもクリエイティブで、ぼくにとっては何より共感できる言葉でした。この人となら、いや、この REENAL とともになら、自分の思いを形にし、世に問うことが出来るんじゃないか。ぼくはそんな興奮でしばらく眠れませんでした。

心の底からの尊敬の念を込めた表現としていうところの、一介のサラリーマンである藤原さんが、考え行動するこの REENAL というプロジェクトが、「Re:S」と連動し、これからどのような形を残していくか。そして皆さんにどれだけあたらしい意識を感じていただくことが出来るか。どうぞこの雑誌の行く末と共に見守ってもらえたらと思います。

最後に、大尊敬する花森安治氏のことばをご紹介します。

「一つの内閣を変えるよりも、一つの家のみそ汁の作り方を変えることの方がずっとむづかしいにちがいない。」

「Re:S」は REENAL と共に、みそ汁の味を変えられるような雑誌を創っていこうと思います。

Re:S

Re:Standard magazine

あたらしいふつうを提案する。

[りす]



Vol. 1

すいとうのある
暮らし



特集2. いまだからワープロ